



今月の
農家さん

人は体力、畑は知力

野洲市比留田
松本 國男さん (79才)



松本さんの野菜の目印です

野洲市比留田で農業を営む松本さん。一年を通して様々な農産物を作付され、現在はオクラやナス、ミニトマトなどの栽培準備のために忙しい日々を過ごされています。

「段取り八割」をモットーに土づくりには特に力を入れており、松本さんがおよそ25年前に自作し、現在も使用しているというぼかし肥料は、一般的な有機肥料に比べて速効性と持続性があることから、「作り方を教えてほしい」という声も多いそうです。

松本さんは「他の人から『國男さんの野菜はや

っぱり他と全然違うね』などの声をいただけることが嬉しいです。楽しみに待っていている人の存在は、とてもやりがいになりますね」と話してくださいました。

また、「私が大事にしている言葉に『人は体力、畑は知力』という言葉があります。畑をする上では体力より、畑について知識を深めることがまずは大切で、一度の失敗で諦めず、その失敗から学んで知識として蓄積させ、知力を上げながら頑張してほしいです」と、新たに農業を始める方へのメッセージをいただきました。



■小麦の生育状況および今後の管理についての穂肥について

1 生育状況について

○全般に生育量は小さく、特に11月下旬播種のほ場では、分げつが進まず、茎数は平年よりかなり少ないです。

(滋賀県農業技術振興センター)

2 今後の管理について

○現在の生育状況は平年より大きく劣っていますが、今後の管理次第で回復させることは可能ですので、排水対策と施肥による対策をお願いします。

(1) 排水対策

溝に水がたまっていませんか？

○排水の不良によって、ほ場が過湿な状態にあると根が障害を受けて収量および品質低下を引き起こします。

○もう一度、溝が詰まっていないか(崩れていないか)確認してください。

溝に水がたまる場合には、速やかに排水するように溝さらえを行ってください。

(2) 施肥

① 基肥一発肥料の場合

○麦の生育量が小さいことから、窒素吸収量は少ないと考えられる。このことから基肥一発肥料に配合された速効性肥料の窒素利用率は平年に比べて低く、吸収

されなかった窒素が流亡している可能性が高い。茎立前の2月中下旬に窒素成分で10aあたり1.5〜2kg程度を追加施用し、積雪がある場合は、融雪後速やかに施用する。

◆11月 基肥一発肥料

◆2月中下旬 麦パンチ・スミトモSSR

追加(10aあたり1.5〜2kg)
NK化成C20号 7〜10kg
高度化成444 10〜14kg

◆4月下旬 実肥

② 速効性肥料の分肥(基肥・追肥・穂肥・実肥)体系の場合

○穂肥の施肥量は施肥基準を基本とする。
○穂肥は、茎数が少ないほ場では茎数を確保するため、穂肥1回目を早めに施用する。

◆11月 基肥

◆12月下旬 追肥

◆1月中旬 追肥

◆2月中旬 穂肥1回目

◆3月上旬 穂肥2回目

◆4月下旬 実肥

分肥の施肥量				
品種	肥料名	穂肥1回目	穂肥2回目	実肥
農林61号	NK化成C20号	20kg	10kg	20kg
	高度化成444	30kg	20kg	20kg
	尿素			10kg
シロガネコムギ	NK化成C20号	20kg	15kg	20kg
	高度化成444	30kg	20kg	20kg
	尿素			10kg